

「子供・子育て会議に出席して」



先日、神埼市の子供・子育て会議に参加させていただく機会がありました。会議に参加しながら、学校での様子を思い浮かべ、次のようなことを徒然と・・・。

校長室には、子どもたちのいろんな声が聞こえてきます。歌を歌う元気な声、教科書を読み楽しそうな声…。例えば国語の教科書に、「どうぶつの赤ちゃん」という説明文があります。そのあらすじを紹介すると・・・。

●ライオンの赤ちゃんは、生まれたとき、子猫ぐらい。目や耳はとじたままで弱々しい。1年ぐらいたつと、お母さんや仲間がするのを見て獲物を自ら捕まえて食べるようになる。

●しまうまの赤ちゃんは、生まれたとき、もうやぎぐらいの大きさがあり、目はあいていて、耳もぴんと立っている。生まれて30分もたたないうちに自分で立ち上がり、次の日には走るようになる。七日ぐらいたつと、お乳も飲むが自分で草も食べるようになる。(後略)

さて、人間の赤ちゃんはどうでしょう。立ち上がるまでに1年弱、自分で食べ物を食べるまでになるのは…。長い時間をかけて、自立し、大人(成人)になって行きます。家族の愛を一身に受け、心身共に育っていくわけですが、「愛されている実感」さえあれば子どもは真っ直ぐに伸びていくと確信しています。後は、自立を後押しする親の関わり方次第でしょうか。保護者の名のおり、幼い頃保護するのは当然の義務。しかし、いつまでも保護し続けようとするのはどうでしょう。長いレッドカーペットを敷き、無菌室で育てる…。果たして人として「力強く逞しく生きていけるのでしょうか」。

最近、入社式にまで出る保護者がいる。「保護者から親へ」成長しきれなかった末路なのでしょうか？これからの日本は大丈夫か？在る方が嘆かれていたことを急に思い出しました。

西部小の子は、強く優しく逞しく育てたい！

如何でしたか？ フリー参観！！

11月2日(月)、フリー参観。連休の間、しかも、平日にもかかわらず、多くの皆様に参観いただいた事に深くお礼申し上げます。体育大会以来の学校での姿、如何でしたでしょうか？

そのおりの様子を一部ではありますが写真にて！また、当日雨で実施できなかった、こすもすさんの芋掘り(大豊作でしたよ！*^o^*)も後日実施しましたので、ご紹介しましょう！



逆境こそ、未来につながる糧になる！

世の中の成功者の中には、幼少青年期、少なからず大変な時代を過ごした人も多いようです。演出家、宮本亞門さんも、その一人だと、ある雑誌で知りました。対人恐怖症や高校時代の引きこもりを乗り越えて、今の宮本さんがあるとのこと。信じられませんか。演出家は、人と関わることなくして成り立つはずもない職業ですから。苦難の時期を乗り越えることが出来た Energy は、次の二つ。①人との出会い②本気になるものを見つけることができたから、だそうです。

そう考えると、私達が子供達のために出来ることは、「逆境の時こそ寄り添ってあげること」「夢中になる何かに出会わせてあげること」でしょうか・・・。



